

「教育のつどい2013」アピール

学び、語ろう、憲法 – 憲法と子どもの権利条約が生きて輝く教育の実現を！

「子どもや青年は未来を開く希望ですね」

そんな声があちらこちらで聞かれました。「教育のつどい 2013」は、愛知県名古屋市で開催され、のべ 6000 人の父母・国民、教職員のみなさんの参加を得て 8 月 16 日からの日程を終え、本日終了しました。猛暑の中、全国から参加いただいたすべての参加者のみなさん、つどい成功のために奮闘していただいた現地要員のみなさん、愛知県体育館や名古屋大学などすべての関係者のみなさんのご協力とご尽力に心からの感謝と敬意を表します。

全体会での愛知・高校生フェスティバル実行委員会のみなさんによる力強く明るさにあふれた群舞、体全体で希望と平和への思いを表現したぞうれっしゃ合唱団の子どもたちの歌声、フォーラム、分科会での高校生・青年の発言に多くの感動と勇気をもたらした 3 日間でした。この子どもたちがいる限り日本の未来は明るい。そして、すべての子どもたちの未来を切り開くためにも平和と教育を守っていききたいとの思いにあふれるつどいとなりました。

「いじめ」や新たな「荒れ」など子どもたちの生きづらさが増していること、その背景に競争や管理の強化、貧困と格差をいっそう拡大する新自由主義的な政策があること、憲法を改悪し日本を戦争のできる国にしようとする動きがあることが明らかにされました。

一方、父母・保護者、教職員、学童保育の指導員、福祉行政に携わる自治体職員など子どもに関わるさまざまな人々の参加を得て、開かれたつどいにふさわしい豊かな討論・交流が行われました。フォーラムや分科会では、子どもたちの思いを共有することで困難を乗り越えていく実践が数多く報告され、子どもの声を聴きとり、願いを受け止める実践＝「子ども理解」の大切さが確認されました。

また、子どもを人間としてではなく国や財界の役に立つ「人材」に仕立て上げようとする今の日本の政治や社会の在り方に目をむけ、学び続けることの大切さを心に刻み、決意を新たにす若い教職員の姿がありました。

子どもたちと教育の未来に心を寄せるすべてのみなさん

教育を国民から奪おうとする安倍「教育再生」の攻撃をはねかえし、今こそ、憲法と子どもの権利条約をいかし、子どもたちを人間として大切にする学校・地域をつくるために、父母・国民、教職員、そして、子どもたちの育ちに関わるすべての人々が力を合わせることをよびかけます。

2013 年 8 月 18 日

「みんなで 21 世紀の未来をひらく教育のつどい 教育研究全国集会 2013」実行委員会